

告示	番号	84	悪性新生物
	疾病名	慢性骨髄単球性白血病	

慢性骨髄単球性白血病

まんせいこつずいたんきゅうせいはっけつびょう

概要・定義

慢性骨髄単球性白血病 (CMML)は単球増加を特徴とし、骨髄増殖性腫瘍(MPN)と骨髄異形成症候群 (MDS)の性質を併せ持つクローン性骨髄腫瘍である¹⁾。小児においては同様の病態としてRAS経路に関与する遺伝子の変異を有し乳幼児に好発する若年性骨髄単球性白血病 (JMML)があるが、厳密な鑑別は困難である。

症状

成人のCMMLを参考にすると多く見られる症状としては倦怠感、体重減少、発熱、寝汗が上げられる。他に易感染性や出血がみられ、白血球増多の症例では肝腫大、脾腫大を伴うことが多い。

治療

小児では一定の患者数を観察した報告はないが、根治を目標に造血幹細胞移植が必要と考えられている。

抜粋元：http://www.shouman.jp/details/1_1_14.html